特集

守って楽しむ夏の水辺

海や川など、水辺でのレジャーを楽しむ機会が増える夏。遊びと学びの場である水辺には、自然ならではの危険も潜んでいます。

安全に楽しく過ごすためには、自然環境の特徴を理解し、水難につながりやすい危険な場所や行為などを知ることが大切です。

津森小修学旅行 日奈久沖遭難事故

昭和24（1949）年11月5日、八代日奈久沖で津森小の修学旅行生が乗った遊覧船が転覆し、多数の犠牲者を出した痛ましい遭難事故がありました。

戦後の混乱期から抜けて、ようやく行われた津森小最初の修学旅行でした。5・6年生合同で行われたこの旅行は、山の子どもたちに海を教える絶好の機会だったので、陸路でも行ける公園の往復に船をチャーターしました。

その復路、定員25人の遊覧船に約65人が乗船。陸地と目と鼻の先の沖合に差し掛かったとき、横波にあおられて船が転覆、全員が海の中に投げだされ、必死の救助活動にもかかわらず6年生22人と教職員1人、校医1人が亡くなりました。

津森小を見下ろす丘「辻ケ峰」には遭難者の慰霊と津森の子どもたちの安全への祈りを込めた慰霊塔が建立されています。

遭難事故から学ぶ 津森小の取り組み

津森小では、事故を風化させないための取り組みが行われています。

毎年11月5日に開催される「いのちの日学校集会」では、遭難事故関係者の講話などが行われ、教訓と命の尊さを児童に伝え続けています。

また、毎年6月には「みんな泳げる25m運動」をテーマに、公益財団法人熊本YMCAによる水泳の特別授業を実施。11年目となる今年は6月28日に行われ、1・2年生は水に慣れ、水の中で上手に息継ぎする方法、3・4年生はクロール、5・6年生は平泳ぎを中心に命を守るための泳ぎ方を学びました。

7月18日には、普段着を着たまま水に入ることを体感し、溺れないための知識を学ぶ着衣泳の授業を実施。児童たちは着衣での水の感覚に戸惑いながらも、慌てず水に浮く方法や、身の回りの物の活用法を学習しました。

（参考／益城町史）